

■適用雑草と使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	薬量 (mL/10a)	希釈水量 (L/10a)	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
移植水稲	-	一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起20~10日前まで	250~500	100	1回	-	2回以内
直播水稲			雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、収穫14日前まで	500~1000	通常散布：100 少量散布：25	2回以内		3回以内
水田作物(水稲を除く)				雑草生育期	250~500 500~1000	25~100		1回
水田作物(水田畦畔)	水田畦畔	多年生雑草	雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、耕起14日前まで	500~1000	通常散布：100 少量散布：25	2回以内	-	3回以内
水田作物(水田刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	250~500	25~100	1回		1回
水田作物、畑作物(休耕地)	休耕地	一年生雑草	雑草生育期(草丈50cm以下) 雑草生育期 但し、は種後出芽前まで	250~500	25~100	2回以内	-	3回以内
小麦	-	多年生イネ科雑草	雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、耕起前又はは種前まで	250~1000	100	1回		3回以内
		多年生雑草	雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、耕起7日前まで	500~1000	100	1回		3回以内
麦類(小麦を除く)	圃場内の周縁部	一年生雑草	雑草生育期 但し、収穫7日前まで	250	25~100	3回以内	-	3回以内
豆類(雑菜、ただし、だいず、らっかせいを除く)	-	雑草生育期	雑草生育期 但し、耕起7日前まで	250	100	1回		2回以内
だいず		雑草生育期	雑草生育期 但し、は種7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	1回
えだまめ		雑草生育期	雑草生育期 但し、は種7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	3回以内
野菜類 (えだまめ、キハバ、はつかだいこん、だいこん、とうがらし類、にんじん、ピーマン、ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、オリーブ(葉)、きゅうり、しゅくやく(園用)、たらぎ、トマト、なす、ひわい、ほうりんそう、レタス、薬用(にんじんを除く))		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又は定植7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	3回以内
トマト、なす、きゅうり、レタス、ほうりんそう、アスパラガス、たらぎ、しゅくやく(園用)、ひわい(葉)、オリーブ(葉)		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又は定植7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	2回以内
ピーマン、とうがらし類、にんじん		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又は定植7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	10回以内 (1年間に2回以内)
薬用にんじん		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又は定植7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	3回以内
ねぎ、たまねぎ		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又は定植7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	3回以内
キャベツ		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又は定植7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	1回
はつかだいこん		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又はは種7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	2回以内
だいこん		一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又はは種7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	3回以内
かんしょ	一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又はは種7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	5回以内	
果樹類 (かんきつ、キウイフルーツ、パイナップルを除く)	一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起又はは種7日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	6回以内	
かんきつ	一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起10日前まで	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	2回以内	
さとうきび(香柚え)	一年生雑草	雑草生育期 但し、耕起10日前まで	250~500	少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	4回以内	
茶	一年生雑草	雑草生育期 但し、摘採7日前まで	250~500	少量散布：25~50	1回	雑草茎葉散布	4回以内	
樹木類	一年生雑草	雑草生育期	250~500	通常散布：50~100 少量散布：25~50	4回以内	雑草茎葉散布	4回以内	
牧草	牧野、草地 (更新・造成)	多年生雑草	雑草生育期 但し、更新・造成の10日前まで	500~1000	50	2回以内	-	3回以内
		一年生及び多年生雑草	耕起後雑草発生時期は種10日前~は種当日	250~500	少量散布：25~50	2回以内		
樹木等	公園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500	通常散布：100 少量散布：25	3回以内	-	3回以内
		多年生雑草	雑草生育期	1000	通常散布：100 少量散布：25	3回以内		
林木	造成地 (地こしらえ)	スギナ	生育盛期	2000	少量散布：25~50	3回以内	-	雑草木茎葉散布
		ススキ、ササ類、クズ等の多年生雑草 闊葉雑草類	生育盛期以降	1000	20~30	3回以内		

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈回数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等	雑かん木	伐採直後	原液又は2倍液	切り口全体に十分量を塗布	-	植栽地を除く樹木等の周辺地に切株塗布散布	-
		落葉雑かん木	5~10月		1mL/ヶ所 樹径 10cm以下 2~3 10~20cm 4~8 20cm以上 10		立木注入処理	
林木	林地	クズ	春期又は秋期	原液	1~2mL/株	-	株頭注入処理	-
		竹類	夏~秋期		5~15mL/本		竹稈注入処理	

空容器(空ビン)は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、適切に処理する。洗浄水はタンクに入れる。

効果・被害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきる。
- グリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用する。
- 調整には濁った水は用いない(効果)
- 着剤の加用は必要ない。
- 土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- 散布前に雑草の地上部を刈り払わない(効果)
- 通常2~14日で効果が発現するので、誤って再散布しない。
- スギナには生育期を過ぎた時期での散布及び他雑草の中に埋没しているような条件下では効果が劣る事があるので、過期にスギナにかかると散布する。
- 出芽前に使用する場合は、作物の出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布する。

- 雑かん木に塗布処理を行う場合は、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布する。
- 注入処理における注意
 - クズには株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理する。
 - 落葉雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ、薬液を注入処理する。
 - 処理竹から15m以内に発生したたけのこを食用に供さない。また、縄間いや立て札によりたけのこが採取されないようにする。
- 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めながら散布する。
- 少量散布の場合は、少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布する。
- 水田への飛散、流入等により水稲に薬害を生じるので、十分注意する。
- 特に生育期畦間散布に使用する場合には作物にかからないよう十分注意して散布する。

- 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないように十分注意する。
- 調整には合成樹脂の内層のない鋼製鉄(ステンレスを除く)の容器類は使用しない。なお散布液を調整した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いする。
- 使用量、使用時期、使用方法等を守る。適用作物群に属する作物又はその新品種に対しては、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。使用方法を厳守する。特に初めて使用する場合は、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 土壌が流亡したり、くずれたりするおそれのある所では使用しない。
- 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意する。
 - 水源池、養殖池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意する。
 - 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。

安全使用上の注意

- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受ける(刺激剤)
- 使用時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石鹸でよく洗い、うがいするとともに洗眼する。
- 公園、堤とうなどで使用する場合、使用区域に縄間いや立て札を立て、使用中および使用後(最低限その当日)に関係者以外は立ち入らせない。小児、人畜等に留意する。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

ラベルをよく読む。記載以外には使用しない。小児の手の届く所には置かない。

発売元:株式会社 コメリ 新潟県新潟市南区清水4501-1
http://www.komeri.com/

製造元:住商アグロインターナショナル株式会社
東京都千代田区一ツ橋 1-2-2 TEL03-6259-1230

農林水産省登録 第20389号 グリホサートイソプロピルアミン塩液剤



コメリの除草剤

マルガリ-ダ®

農耕地登録品

1年生雑草から頑固な多年生雑草を一掃



お得な 大型規格

除草剤マルガリーダの有効成分であるグリホサートは世界中で広く使用されています。

日本でも除草剤の中では一番多く使用され効果、安全性、経済性で全国の農家さんから高い評価をいただいています。

水田作物、畑作物、果樹園その他幅広い分野で有効に利用されています。

特長

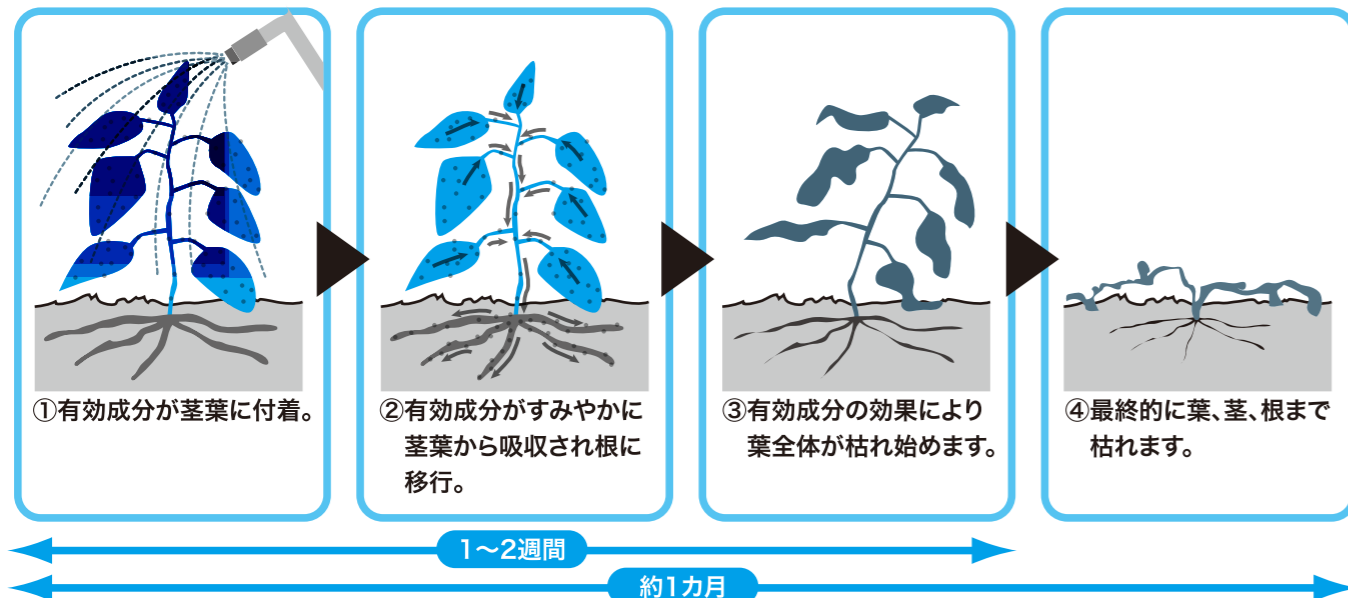
- 生育中の一年生雑草から頑固な多年生雑草を根まで枯らします。
- イネ科雑草、広葉雑草に有効です。
- 有効成分は土壤中で速やかに不活性化しますので後作物にも安全です。
- 接触吸収移行型除草剤ですので作物にかからなければ安全に使用出来ます。
- 散布時に土に落ちた薬剤成分は1時間以内に土壌粒子に吸着され、その後微生物等により自然物に分解されます。

作用機構

グリホサートは植物の芳香族アミノ酸の生合成経路中の5-エノールピルピルシキミ酸-3-リン酸合成酵素 (EPSPS) と特異的に結合し、その活性を阻害することで植物を枯らします。

このEPSPSは全ての植物に存在することから、グリホサートは一年生のイネ科雑草、広葉雑草や多年生のイネ科雑草、広葉雑草さらに雑かん木類まで幅広い雑草種に殺草効果を示します。

殺草過程



雑草別の薬量

対象雑草に合わせて適切に希釈し使用してください。



使用時期



他の作物は裏面の[適用雑草と使用方法]をご参照下さい。

効果的な使用方法

●雑草発生後に散布！
薬剤が雑草の茎や葉に付着しなければ効果は発揮されないため、雑草発生前の散布は効果がありません。

●散布はムラなく！
草丈の異なる雑草が混生している所では、草丈の低い雑草にも十分散布してください。

●きれいな水を使用！
ドロなどを含まないきれいな水を使用してください。(効果が十分発揮されない要因となります。)

●雨天時の散布は避ける！
散布後6時間以内の降雨は、効果を低下させる要因となります。

●散布前/散布後7~10日間は雑草を刈らない！
茎葉部から薬剤が吸収されるため、十分な茎葉面積と時間が必要です。

上手な使い方

●散布は、雑草の生育盛期に
一年生雑草：
草丈が15~30cmになった頃に散布すると安定した効果が得られます。
多年生雑草：
根まで枯らすためには、生育盛期から開花期前までに散布するのが効果的です。

●散布方法
噴霧機もしくはジョウロを使用し、茎葉全体にムラなく、しっとりぬれる程度に散布して下さい。